

## 平成23年度事業計画書

1. 学術振興事業 3,000,000円

[先端的科学技術に関わる大学等研究機関及び研究者への支援並びにセミナー等による社会への還元活動を通して学術の振興を図る。]

平成22年度より開始した新任教員の研究室立ち上げ費用援助(年額150万円:50万円/名×3名)を平成23年度も引き続き行いたい。また、大学院前期博士課程学生の国内学会発表への出張費援助(年額100万円)および学術論文誌の電子化に伴う理工学メディアセンターへの図書購入費援助(年額20万円)を平成23年度も続けたい。

中西基金が終了したため、それに代わる若手研究者主催のシンポジウム等の研究会合費援助(年額10万円)を行いたい。また、恒例のセミナー「現代科学・技術の最前線」については、先端的研究の諸分野に関わる研究者等を講師に迎え、1~2回程度開催(主催/共催:年額20万円)を予定する。
2. 国際交流事業 1,000,000円

[日本の科学技術の発展と国際交流の促進を図るための研究者への支援並びに海外からの研究者招聘等の支援を通して先端的科学技術に関する国際交流を図る。]

例年行ってきた若手研究者(教員)が研究成果を国外で発表するための国際学会出張渡航費援助は、同様の支援を得る他からの機会も増してきているので、平成22年度同様に(年額50万円)に絞って行いたい。また、海外からの研究者招聘のための費用援助等を行いたい(年額50万円)。
3. 育英奨学事業 8,930,000円

[科学技術系大学・大学院の学生に対する奨学・育英を図るための学費等の助成並びに成績優秀な学生の褒賞等により先端的科学技術に関わる人材の育成を図る。]

平成23年度も、研究意欲旺盛で優れた研究業績を挙げると認められる後期博士課程の人物優秀な学生を育英するための助成(年額210万円:70万円/名×3名)を行いたい。また、例年行っている理工学系の学部学生及び大学院前期博士課程の院生に対する奨学を目的とする奨学金の給付を、昨年と同様に(年額648万円:36万円/名×18名)行いたい。

なお例年通りに、成績優秀な学生に対する表彰等の育英事業として、平成23年度理工学部卒業生の成績優秀者7名に対して「慶応工学会賞」を授与して表彰する。

4. 研究推進事業 340,000,000円

[産官学連携による委託研究・共同研究の斡旋、紹介並びに受託研究の受入れ、研究成果の実用化・事業化の支援、使用研究者を指定した研究資金の受入れ等により先端的科学技術の研究活動の推進・発展を図る。]

(1) 委託研究業務 (303,000,000円)

例年の通り、企業・公共団体等からの委託研究・共同研究等を受託する。その目標額は3億円であるが、日本経済の再成長には研究開発と研究成果の実用化が不可欠であり、企業並びに研究者の理解と協力を求めて目標の達成を図りたい。なお、使用研究者を指定した研究資金の受け入れは見積もることが困難であるが、過去の実績をもとに300万円と想定している。

(2) 研究成果の実用化・事業化支援業務 (37,000,000円)

昨年の年度途中からPOF研究成果の実用化・事業化の支援を図るフォーラム(F2CF)が開始されたが、活動の進捗具合から平成23年度にその事業額(会費総額)を予算計上することになり、その額を3,700万円と想定している。なお、昨年の年度途中にKPRIからの業務委託があったが、平成23年度は予定されていないので計上していない。

5. 学術普及事業 1,200,000円

[科学技術に関わる講習会等の開催及び開催業務の支援を通して、その普及並びに研究成果の社会への還元に寄与することを図る。]

「キャッシュフロー経営に役立つ経済性工学」のセミナー開催に関わる事務を受託する。この経済性工学セミナーは、過去40年以上も継続して開催されており、その内容は、新しい研究成果と時代の経営ニーズに応じた知識の紹介を付け加えながら充実が図られてきている。